

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：23903

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H00906

研究課題名（和文）神仏融合から見た日本の宗教・思想とアジアの比較研究 分野横断による人文学の再生

研究課題名（英文）Comparative Study of Japanese Religion and Thought from the Perspective of Syncretism of Shinto and Buddhism: Revitalizing the Humanities through Interdisciplinary Research

研究代表者

吉田 一彦 (YOSHIDA, Kazuhiko)

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・名誉教授

研究者番号：40230726

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 25,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本における仏教と神信仰の融合のあり方を考究し、それをアジアの他の国や地域における神仏の融合のあり方と比較して、共通性と差異を明らかにするというものである。本研究によって、日本の神仏融合の歴史と特質を国際比較という視座から明確化することができた。あわせて、アジア諸地域における神仏の融合の様相を明らかにし、アジア諸地域の文化と日本の文化とを比較して、各文化の特質を析出した。さらに、世界宗教としての仏教の特質を、神仏融合の歴史的進展という観点から明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、日本の神仏融合の歴史と特色を、旧来の日本一國史・日本特殊論の思考枠組ではなく、国際比較研究という新たな視座から解明したことで、この観点からの初めての研究になったことである。本研究の社会的意義は、日本の文化・思想・宗教の特質を、神仏融合の国際比較研究という独自の視座から解明して、その成果を学界および社会に発信したことである。

研究成果の概要（英文）：This study aims to examine the integration of Buddhism and Shinto in Japan, compare it with the integration of gods and Buddhas in other countries and regions in Asia, and clarify the commonalities and differences. Through this study, it was possible to clarify the history and characteristics of the integration of gods and Buddhas in Japan from an international comparative perspective. Additionally, by revealing the aspects of the integration of gods and Buddhas in various regions of Asia and comparing the cultures of these regions with Japanese culture, the unique characteristics of each culture were identified. Furthermore, the distinctive features of Buddhism as a world religion were revealed from the perspective of the historical development of the integration of gods and Buddhas.

研究分野：日本思想史

キーワード：神仏融合 神仏習合 仏教 神信仰 神道 日本文化 アジア 宗教史

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究は、日本における仏教と神信仰の融合のあり方を考究し、それをアジアの他の国や地域の融合のあり方と比較してその共通性と差異を明確化することを企図するものである。

仏教と神信仰との融合は、日本で成立・展開した日本独自の宗教現象だとかつてしばしば説かれた。しかし、研究代表者は、1996年に論文「多度神宮寺と神仏習合」を発表して、日本の神仏習合は中国における仏教と神信仰の融合のあり方やその思想の強い影響を受けたものであることを明らかにした。この学説は各方面から高い評価を受け、歴史教育においても、代表的教科書の一つ『詳説日本史B』(山川出版社)の2005年度版以降、「神仏習合」の項目が「天平文化」の単元に移動し、注で中国の神仏融合思想の影響があることが記されるようになった。2007年の奈良国立博物館「神仏習合」展では、中国の神仏融合の影響という観点が展示に反映された。このように研究代表者の説は、学界の成果として共有されるに至った。

研究代表者は、その後、この視座からの研究をさらに発展させるため共同研究チームを組織し、科研費を受け(平成21~25年度、平成26~28年度)研究会を主催して研究を進めてきた。今後の研究の発展方向性としては、一つは、日本一國史や日本特殊論の思考枠組を脱却して、アジア史、そしてユーラシア史や世界史の中に日本の神仏融合を位置付けることである。宗教の融合の姿はその地域の文化の個性そのものであり、それを明確化し、また比較検討することによって、各国・地域で展開した歴史・文化を他と対比しながら理解することができる。そうした構想のもと、研究チームを組織し、共同研究を進めてきた。

2. 研究の目的

本研究は、次の諸点を明らかにすることを目的とする。

仏教と神信仰の融合がアジア諸地域に広く展開している実態を明確化する。

いわゆる 神仏習合 の理解は、近年、国際的観点が導入されつつあるとはいえ、まだ旧来の日本一國史観に基づく見解が根強い。本研究によって、アジア諸地域における神仏の融合の様相を、実地調査や史料の明示によって実証的に明らかにする。

日本における仏教と神信仰の融合とアジア諸地域における融合のあり方を比較し、その共通性と差異を解明する。

中国中原地域、中国周辺地域、朝鮮、ベトナム、台湾、モンゴル、そして日本などに仏教と神信仰の融合が見られる。ここでは、それらの様相を比較し、融合のあり方から見た各地域の文化の普遍性と個別性を明確化する。

日本における神仏の融合の歴史と特質を、国際的視座を加味してあらためて明確化する。

アジアの諸地域における神仏融合のあり方を念頭に置いて、日本における神仏の融合の様相を析出し、その成果に立って、奈良時代から江戸時代におよぶ日本の神仏融合の歴史と特質を描出する。

仏教と神信仰の融合の様相から見たアジア諸地域の歴史と文化の特質を析出する。

神仏の融合のあり方は、その地の文化の特質を析出する絶好の題材となる。本研究では、この方法によって日本を含むアジア諸地域の文化の歴史的・地理的特質を明らかにする。ユーラシア史、世界史研究にむけた新たな視角を提示する。

日本を含むアジア諸地域の神仏融合の様相を明らかにすることによって、アジア史、ユーラシア史、世界史の研究に、宗教史分野からの研究事例として提示する。

3. 研究の方法

(1) 研究方法の基軸

本研究では次の諸点を研究方法の基軸とする。

研究打ち合わせ会の実施、審議、決定

研究打ち合わせ会を実施して、研究遂行上の諸課題について審議、決定する。

国内・国外の現地調査および資史料調査

日本およびアジア諸地域の寺院、神社、廟、祠、宗教施設、博物館などの現地踏査を実施し、また神仏関係資史料の調査を実施した。あわせて内外研究者との学術交流を行なう。

資史料の読解・分析

収集した資史料の整理、読解、分析を実施した。あわせて、その読解、史料批判、評価、意義について討議を行ない、論を構築する基礎データとする。

研究会における研究発表・討論。および議論の共有化

研究会(「神仏融合研究会」)を開催し、研究発表と討論を行なう。それを通じて研究の進展状況を確認し、あわせて成果を共有する。さらに、外部から関係の研究者を招聘して研

究成果を学び、研究交流する。

(2) 研究体制

本研究では、研究代表者および研究分担者の計 8 人が共同研究チームを編成した。また、5 人の研究協力者をお願いして、国内外の現地調査や研究会で研究協力をお願いした。これにより、日本を主たるフィールドとする研究者と、アジアを主たるフィールドとする研究者による共同研究チームを構築することができた。

(3) 神仏融合研究会、国内外調査の実施状況、および研究計画の変更

2017 年度は、3 回の研究会を実施し、4 回の国内調査、1 回の海外調査を実施した。

2018 年度は 2 回の研究会を実施し、5 回の国内調査、2 回の海外調査を実施した。

2019 年度は 3 回の研究会を実施し、5 回の国内調査、1 回の海外調査を実施した。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症 (covid-19) が流行・蔓延したため、研究打ち合わせ会で審議し、研究計画を大幅に見直して研究を進めた。国外の調査、国際研究集会は延期または中止とし、研究会も対面は延期・中止とした。代わって、オンラインによる研究会を 1 回実施した。また、感染症流行の谷間に少人数による国内調査を 3 回実施した。

2021 年度も新型コロナウイルス感染症 (covid-19) の流行・蔓延が継続した。そこで、オンラインによって、研究打ち合わせ会を 1 回、研究会 (神仏融合研究会) を 2 回実施した。国内調査は、少人数による調査を 3 回実施した。そして、前年度に再構築した研究計画に従い、研究年度を 2022 年度まで延長することとした。

2022 年度は、研究打ち合わせ会を 1 回、外部との研究打ち合わせ会を 1 回、研究会を 2 回、公開シンポジウムを 1 回実施した。国内調査は、長野県諏訪地方を重点化し、この地方の現地調査を計 6 回実施した。当初予定していた国際研究集会は、新型コロナウイルス感染症 (covid-19) の流行が終息しないため中止とし、代わりに諏訪において 諏訪神仏プロジェクト と共同主催の公開シンポジウムを実施することに変更した。

4. 研究成果

(1) 本研究の主な成果

主な研究成果

本研究で明らかにしたことの第 1 点は、仏法と神信仰との融合・複合は、日本にだけ見られる宗教現象ではなく、アジア諸地域に広く見られる宗教現象であるということである。では、その具体相はどのようなものか。本研究では、中国中原地域、中国辺境地域、北アジア、ベトナム、台湾、マレーシアなどにおける諸様相について、史料収集・史料分析・現地調査に基づいて実証的に明らかにした。かつて、「神仏習合」は日本独自の宗教現象であり、日本の宗教、日本の文化の大きな特色であるとししばしば説かれた。しかし、この前提は妥当なものとは言えない。日本だけではなく、アジアの多くの国や地域に仏教と神信仰の融合が見られるから、神仏の融合は日本独自の宗教現象とは言えない。まず、そのことを学術的に明確化した。

第 2 点は、アジアの諸地域に見られる神仏の融合と日本における神仏の融合の様相とを比較し、その共通性と差異に注目してその一端を明らかにしたことである。ただ、この部分の明確化はまだ開始されたばかりで、特に差異についてその全貌を明らかにする水準にまでは達していない。それでも共通性と差異の一端を明らかにしたことは大きな成果だと考えている。まず必要になるのは、日本における仏教と神信仰との融合の姿を、その一形態であるとしてとらえる視座だと考える。かつて、「神仏習合」が日本独自の宗教文化だと考えられたのは、今日ほど国際交流が容易ではなかったという時代状況と、日本の歴史や文化を日本一国の中で考察する傾向が強かったという学問状況に規定されたものであった。そうした状況下では、私たちはアジアの隣国の宗教や文化を冷静に見つめる視座に乏しく、日本の宗教の状況をただちに欧米のキリスト教国と比較してその差異を抽出しようとしたり、あるいはユダヤ教やイスラームの宗教文化と比較して日本の特殊性を強調した。しかし、そうした状況は今日、大きく変化した。私たちは、アジアの隣国である中国・韓国・北朝鮮にかつて以上に正面から向き合わねばならず、またインドや東南アジア、あるいは北アジア、中央アジアの国々ともかつて以上の密接な交流を開始するようになってきている。そうした現代日本において、アジア諸地域における神仏の融合のあり方との共通性および差異を抽出する作業は重要な意義を持つと考えている。

第 3 点は、そうした考察の上で、日本における神仏の融合の歴史と特質をあらためて明らかにしたことである。かつて、日本の「神仏習合」を、一国史観、日本特殊論の視座から研究していた段階では、その特質を明確化することに限界があった。何が日本の特質なのかはかえって曖昧としており、また日本の神仏融合に見られる諸々の現象のそれぞれが自生のものなのか、外来のものなのかも曖昧であった。本研究では、他の国・地域における諸様相を念頭に置いて、日本における神仏の融合の様相を析出した。これにより、日本の神仏融合の歴史と特質は明確化されたものと考えている。後述する『神仏融合の東アジア史』(名古屋大学出版会、2021 年)の第 1 部「日本における神仏融合の歴史的展開」は、その成果に立って、奈良時代から江戸時代前期におよぶ日本の神仏融合の歴史と特質を描出したものである。これは本研究の大きな成果であると考えている。

第4点は、仏教という宗教が持つ特質の一つを明確化したことである。アジアの仏教国・地域に展開する神仏の融合に見出される共通性は、仏教という宗教が持つ性格に起因する部分が多い。仏教が全般として持つ神信仰との親和性である。2021年データでは、世界の総人口約73億人に占めるキリスト教徒は約23億人(32%)、イスラーム教徒は約18億人(25%)、ヒンズー教徒は約11億人(15%)、仏教徒は約5億人(7%)となっており、キリスト教徒とイスラーム教徒で世界総人口の約57%を占めている。オリエント地方であい前後して誕生したユダヤ教、キリスト教、イスラームは、アブラハムの宗教と呼ばれる一神教であって、創造者としての唯一神が世界や人間を創造したと説き、世界の終末にすべての人が審判を受けると説き、さらに偶像崇拜を否定する。また、正統と異端の思想を持つこともよく知られている。これらアブラハムの宗教においては、各地に流布、展開するにあたって、その地の神信仰と融合あるいは複合することは、教義に合わない不純な信仰であるとして否定的に評価されてきた。英語のシンクレティズム syncretism、アマルガメーション amalgamation には、そうした否定的な語義・語感が包含されている。対して、仏教は、すでにインドにおいて、インドの神々と融合することで流布・発展し、大乘仏教や密教へと展開していった。さらにアジアの諸地域に世界宗教として展開したのは、その地の神々と融合・複合していった。本研究では、仏教の持つこうした特質を一神教とは異なる多神教の特質として概念化し、また仏教の持つ親和性として析出した。

第5点は、アジア諸地域における民族信仰的な神信仰の特質を析出する方法論の一つを提示したことである。ユーラシア大陸においては(あるいは世界においては)各地に民族信仰的神信仰が成立・展開してきた。日本もその例外ではなく、日本の神道(神祇祭祀)は、そうした民族信仰的な神信仰の一つと位置づけられる。では、各地の民族信仰的神信仰の特質はどのようにしたら解明できるだろうか。それぞれの地域で展開してきた民族信仰的な神信仰の歴史と特質を解明し、それらを比較研究することは、人文学の大きな研究課題であり、日本の「神道」についても、そうした方法で研究することによって、その特質を明確化することができる。だが、民族信仰的な神信仰の比較研究といっても、その対象は巨大で茫漠としており、どこから手をつければよいのやら切り込む方法に苦慮する。その時に、神仏融合の歴史・特質の国際比較研究は、一つの方法論として有効性を持つ。仏教とどのように融合するのか、あるいは対立するのか。種々の関係性があり得る。それを解明することによって、その地の民族信仰的な神信仰の特質を明確化することができる。本研究ではこの方法論を提示した。

第6点は、アジア史・ユーラシア史・世界史の視座の下に、日本の宗教、思想、そしてアジアの宗教、思想を位置づける方向性を示したことである。日本一國史・日本特殊論の思考枠組を克服して、日本の宗教・思想・文化を、アジア史・ユーラシア史、さらには世界史という視座の下に再定義する作業は容易ではない。本研究は、最初の一步に過ぎないが、かかる視座から日本の宗教文化を考察するものになった。

第7点は、人文学における分野横断研究の有効性の一事例を示したことである。人文学活性化のために人文学諸分野の分野横断、再構成の必要があると指摘されてすでに久しい。本研究では、日本史 東洋史 という枠組、仏教研究 神道研究 道教研究 儒教研究 ヒンドゥー教研究 キリスト教研究 という枠組、また 歴史研究 思想研究 文学研究 民俗研究 美術史研究 という枠組などを超え、分野横断的に研究者が集い、共同研究をした。神仏の融合・複合の比較研究は、従来の人文学の一分野からは出にくい。こうした分野横断研究によってはじめて可能になるものとする。本研究の成果の一つとして、人文学における分野横断研究の有効性の一事例を示したことがあげられる。

本研究の主たる研究成果を発信した研究書

本研究の成果は、研究代表者、研究分担者のそれぞれが、著書、論文、学会発表の形で発表した。その中で、本研究の共同研究チームが全体として分担執筆した研究書がある。

吉田一彦編『神仏融合の東アジア史』(名古屋大学出版会、2021年、全714ページ)がそれである。これは本研究の代表的業績といえる。その目次を以下に列記する。

[目次]

序章 東アジアの神仏融合と日本の神仏融合 (吉田一彦)

第1章 多神教としての仏教とその東流 東アジア仏教における神仏信仰の基盤 (曾根正人)

第 部 中国における神仏融合の歴史的諸相

第2章 「神」「仏」理解から見た中国宗教 (荒見泰史)

第3章 敦煌における儒教と仏教 (高井龍)

第4章 宋代の水陸齋にみる三教融合 南宋仏画における普度儀礼と使者を中心に (高志緑)

第5章 明清時代の祠廟祭祀と仏教 城隍神の冥界裁判を中心に (水越知)

第 部 東アジアにおける神仏融合の地域的展開

第6章 祭山儀にみる契丹の信仰 謁菩薩堂儀の位置づけをめぐる (藤原崇人)

第7章 ベトナムの神仏融合と道教 (大西和彦)

第8章 台湾における道教と仏教 (松本浩一)

第9章 マレーシアの寺廟にみる神仏融合 (二階堂善弘)

第 部 東アジアのなかの日本の神仏融合

第10章 鬼と神と仏教 インド・中国・日本: 役行者の孔雀王呪法を手掛かりに (吉田一彦)

第 11 章 地天の変容 毘沙門天の脚下で (高橋早紀子)
第 12 章 ガラン神考 三河・信濃・遠江国境地域から見た神仏交渉史の一断面 (脊古真哉)
第 13 章 観音・媽祖・マリア 近世長崎における清国海商とかくれキリシタン (松尾恒一)
第 部 日本における神仏融合の歴史的展開
第 14 章 古代における神仏の融合 (吉田一彦)
第 15 章 平安時代における神の変容 神仏融合と神仏隔離 (関山麻衣子)
第 16 章 中世の神と仏 神仏習合 再考 (上島享)
第 17 章 中世の神仏関係から近世へ 特に神本仏迹説をめぐって (伊藤聡)
終章 神仏習合説形成史の批判的考察 (吉田一彦)
編者あとがき (吉田一彦)

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

日本の 神仏習合 をめぐる研究は数多く、多数の研究が積み重ねられてきた。しかし、本研究のような国際的視座から問題設定を行ない、この観点から実証研究を進めた先行研究はない。本研究はそうした研究状況の中に発信された新研究になっている。したがって、賛否はあるだろうが、内外の研究者にとって、無視・軽視することのできない研究成果になっているものと考えられる。

前掲の研究書については、すでに複数の学会・研究機関の機関誌に書評・紹介が掲載されており、議論が開始されている。日本宗教学会(評者佐藤弘夫)、史学研究会(評者林淳)、東南アジア学会(評者中西裕二)、説話文学会(評者鈴木耕太郎)、南山宗教文化研究所(評者 Mark Teeuwen)である。これらは宗教学、歴史学、東南アジア学、文学(説話学)の学会・研究機関で、複数の分野にわたっている。これは、本書が人文学の分野横断研究の成果であることを示すことと理解している。

(3) 研究成果の社会への発信

公開シンポジウムによる研究成果の社会への発信

2022 年度、私たちは、長野県諏訪地域で計画、開催された 諏訪神仏プロジェクト と連携することができた。同プロジェクトは、明治の廃仏毀釈によって分散してしまった旧諏訪大社上社・下社神宮寺所蔵の仏像を一斉公開するという事業である。これは、本研究にとっても注目すべき重要資料の一斉公開となる。そこで、本研究は同プロジェクトと連携して、同年 10 月 16 日、神仏融合研究会・諏訪神仏プロジェクト主催、諏訪市・大昔調査会共催で、公開シンポジウム「諏訪の神と仏教」を諏訪市文化センターで開催した。

プログラムは「御挨拶」(金子ゆかり諏訪市長)、吉田一彦「神仏の融合と分離 神宮寺の歴史と諏訪」、上島享「中世諏訪社における神事と造営 鎌倉末期を中心に」、原正直「諏訪神社「御玉会」の神仏習合思想」、伊藤聡「中世神道・中世日本紀における諏訪明神」、石埜三千穂「諏訪 神仏プロジェクトと神宮寺の仏たち」、荒見泰史「中国敦煌における地域の信仰と仏教」、渡邊匡一「廃仏毀釈の様相 仏法紹隆寺の文書から見る」で、研究代表者の吉田一彦、研究分担者の上島享、伊藤聡、荒見泰史が登壇した。この公開シンポジウムは、幸いにも、多くの市民の参集を得ることができ、研究成果の一端を社会発信するよい機会になった。

放送を通じての研究成果の社会への発信

歴史秘話ヒストリア「神と仏のゴチャマゼ千年 謎解き!ニッポンの信仰心」(2018 年 5 月 18 日放送) 研究代表者の吉田一彦、研究分担者の伊藤聡が出演して研究成果の一端を視聴者に発信した。

NHK「お水取り(生中継) 闇と炎の秘儀 お水取り 奈良の東大寺修二会」(2021 年 3 月 13 日放送) 新型コロナウイルス感染症(covid-19)が流行・蔓延したため、この年、東大寺はお水取り(二月堂修二会)の拝観を停止し、代わってNHK テレビによってこの儀礼の生中継を配信した。研究代表者の吉田一彦、研究分担者の荒見泰史がこの番組に出演し、研究成果の一端を視聴者に発信した。

(4) 今後の展望

固定的観念から自由になって、日本の神仏融合を国際的な視座から捉え直すこと これは、今後の神仏融合研究の基軸になりうるものだと考える。ただ、この視座からの研究はまだ開始されたばかりである。今後、解明していかなければならない個別の課題は数多い。

日本にそくして言えば、江戸時代後期から幕末維新期の神仏分離に至る神仏関係の動向を、国際的視座から再考し、アジア史・ユーラシア史の中に位置づける作業が大きな研究課題として残っている。また、アジアにそくして言えば、仏教と神信仰の融合史という視座からアジアの仏教史を再考、再構築し、仏教の特質を明確化して、世界宗教としての基本的性格を明らかにする作業が私たちの前にある。今後も、神仏融合研究会を基盤に、国内外の研究者との研究交流を密にし、これらの諸課題の研究を活性化していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計75件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 18件）

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 108
2. 論文標題 聖徳太子と聖徳太子信仰 信仰の表現	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 同大学論叢	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 論集
2. 論文標題 横曽根門流の成立と展開	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 同朋大学仏教文化研究所編『親鸞・初期親鸞門流の研究』（法蔵館）	6. 最初と最後の頁 71-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 104
2. 論文標題 蓬左文庫の六国史 徳川義直の学問の志向性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 蓬左	6. 最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 47
2. 論文標題 仏書としての『日本霊異記』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 47
2. 論文標題 疫病と鬼神をめぐる論点	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 仏教文学	6. 最初と最後の頁 91-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 716
2. 論文標題 駒井匠「八・九世紀の天皇における仏教的国土観の受容と展開」を聞いて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 57-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上島享	4. 巻 論集
2. 論文標題 草創期の京都帝国大学国史学の特質 時期区分論と世界史	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小澤実・佐藤雄基編『史学科の比較史 歴史学の制度化と近代日本』勉誠出版	6. 最初と最後の頁 88-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上島享	4. 巻 論集
2. 論文標題 『源氏物語』が書かれた時代 歴史学から考える転換期の文学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宇治市源氏物語ミュージアム編『光源氏に迫る 源氏物語の歴史と文化』吉川弘文館	6. 最初と最後の頁 84-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 脊古真哉・藤井由紀子（共著）	4. 巻 42
2. 論文標題 行事・儀礼・芸能の変容と継承 共同研究「寺院・仏堂を守護する神の展開・変容についての総合的研究」の成果から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 同朋大学仏教文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 脊古真哉・藤井由紀子（共著）	4. 巻 41
2. 論文標題 行事・儀礼・芸能の変容と継承 共同研究「寺院・仏堂を守護する神の展開・変容についての総合的研究」の成果から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 同朋大学仏教文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15076/00002331	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 曾根正人	4. 巻 37
2. 論文標題 『成唯識論述記』訳注（五）（共著）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 就実大学史学論集	6. 最初と最後の頁 61-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曾根正人	4. 巻 36
2. 論文標題 『成唯識論述記』訳注（四）（共著）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 就実大学史学論集	6. 最初と最後の頁 207-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 71
2. 論文標題 両部神道の形成 鎌倉時代を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 智山学報	6. 最初と最後の頁 7-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 863
2. 論文標題 中近世移行期における吉田神道の意義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 55-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 36
2. 論文標題 崇・天譴・怪異 日本における天災と信仰	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国 社会と文化	6. 最初と最後の頁 38-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 5月臨時増刊号
2. 論文標題 中世神道説と修験道・陰陽道との関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 351-362
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂 善弘	4. 巻 15
2. 論文標題 『封神演義』の元帥神	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東アジア文化交渉研究 = Journal of East Asian cultural interaction studies	6. 最初と最後の頁 251 ~ 263
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32286/00026553	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 論文集
2. 論文標題 中江藤樹と鎮宅靈符	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西大学東西学術研究所創立70周年記念論文集	6. 最初と最後の頁 261-278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 論文集
2. 論文標題 《神仙通鑑》所見的明清期洞天福地	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 2019年第一屆洞天福地研究与保護國際研討會論文集	6. 最初と最後の頁 127-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂 善弘	4. 巻 54
2. 論文標題 明清期の瘟神と医神	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 関西大学東西学術研究所紀要	6. 最初と最後の頁 A27-A42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32286/00023724	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒見 泰史	4. 巻 17
2. 論文標題 敦煌本P.3770「俗講莊嚴迴向文」再考	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 敦煌寫本研究年報	6. 最初と最後の頁 143～161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/Dunhuangnianbao_17_143	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒見 泰史	4. 巻 23
2. 論文標題 通渭社火：中国農村の正月儀礼と燃灯儀礼についての一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア社会文化研究	6. 最初と最後の頁 21～41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/52267	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒見 泰史	4. 巻 16
2. 論文標題 唐五代敦煌における正月の燃燈儀禮	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 敦煌寫本研究年報	6. 最初と最後の頁 61～82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/Dunhuangnianbao_16_61	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒見 泰史	4. 巻 31
2. 論文標題 敦煌の西王母信仰と唱導	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古代学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 45-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤原崇人	4. 巻 論集
2. 論文標題 宋元時代華北の都市名刹 釈源・洛陽白馬寺を中心に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 西本昌弘編 『都市と宗教の東アジア史』 勉誠出版	6. 最初と最後の頁 185-198
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原崇人	4. 巻 37
2. 論文標題 契丹(遼朝)治下律僧の様態 「律宗」の存在をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中国 社会と文化	6. 最初と最後の頁 58-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 166
2. 論文標題 聖徳太子信仰の現在と親鸞における太子信仰	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教化研究	6. 最初と最後の頁 76-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 152
2. 論文標題 アジアの寺院で聞く南無阿弥陀仏	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 本郷	6. 最初と最後の頁 29-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 16
2. 論文標題 近年の研究成果と今後の研究課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人間文化研究所年報	6. 最初と最後の頁 2-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上島享	4. 巻 論文集
2. 論文標題 平泉の寺院と法会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 菅野成寛編『平泉の文化史2 平泉の仏教史』(吉川弘文館)	6. 最初と最後の頁 69-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曾根正人、松原光法、八重樫直比古	4. 巻 35
2. 論文標題 『成唯識論述記』訳注(三)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 就実大学史学論集 = SHIGAKU RONSHU : Shujitsu Historical Journal	6. 最初と最後の頁 155 ~ 182
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24771/00000541	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 脊古真哉	4. 巻 40
2. 論文標題 田遊びと修正会が出会う場(下) 近畿・東海地方の田遊びの中での高野山周辺地域の修正会と御田	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 同朋大学佛教文化研究所紀要 = Bulletin of Doho University Institute of Buddhist Culture	6. 最初と最後の頁 200-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 論集
2. 論文標題 神道と東アジア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小峯和明編『東アジア文化講座3 東アジアに共有される文学世界 - 東アジアの文学圏』(文学通信)	6. 最初と最後の頁 206-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 39
2. 論文標題 中世神道とその研究の軌跡	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 あんじゃり	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 論集
2. 論文標題 神道における宗教性と変容	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中嶋隆博ほか編『社社会堂から探る 江戸東京の精神文化』(勁草書房)	6. 最初と最後の頁 103-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 論文集
2. 論文標題 忌部正通『神代巻口訣』と忌部神道	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山下久夫・斎藤英喜編『日本書紀一三〇〇年史を問う』(思文閣出版)	6. 最初と最後の頁 224-252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 52
2. 論文標題 中世から近世へ 十六・十七世紀の思想史的課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本思想史学	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒見 泰史	4. 巻 15
2. 論文標題 S.2204 『(擬)董永変文』再考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 敦煌寫本研究年報	6. 最初と最後の頁 1~15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14989/DunhuangNianbao_15_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒見 泰史	4. 巻 22
2. 論文標題 和泉市久保惣記念美術館 『仏説十王経』について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア社会文化研究	6. 最初と最後の頁 1~26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/50731	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原崇人	4. 巻 論文集
2. 論文標題 契丹北域のせん塔に関する一試論	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 板倉聖哲・塚本磨充 編 『アジア仏教美術論集 東アジア 五代・北宋・遼・西夏』中央公論美術出版	6. 最初と最後の頁 507-528
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤原崇人	4. 巻 論文集
2. 論文標題 釈迦生身を奉ぜる女真の王朝 仏教国としての金	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 板倉聖哲編『アジア仏教美術論集 東アジア 南宋・大理・金』中央公論美術出版	6. 最初と最後の頁 515-537
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 893
2. 論文標題 奈良・平安時代前期の神仏習合	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 全
2. 論文標題 天皇代理者への崇拜聖徳太子信仰と天皇制度との連関について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本仏教の成立と展開』(道元徹心編、法蔵館)	6. 最初と最後の頁 17-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 15
2. 論文標題 エロ ラ石窟・敦煌石窟をたずねて 2019年の調査から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間文化研究所年報(名古屋市立大学人間文化研究所)	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上島享	4. 巻 全
2. 論文標題 密教修法の構成・特質と中世寺院社会 孔雀経法を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本仏教の成立と展開』（道元徹心編、法蔵館）	6. 最初と最後の頁 235-271
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒見泰史	4. 巻 14
2. 論文標題 敦煌の民間信仰と仏教、道教	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 敦煌写本研究年報	6. 最初と最後の頁 51-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/DunhuangNianbao_14_51	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 曾根正人	4. 巻 全
2. 論文標題 平安初期仏教界と五台山文殊信仰 『日本霊異記』上巻第五縁五台山記事が語るもの	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『説話の形成と周縁 古代編』（倉本一宏・小峰和明・古橋信孝編臨川書店、）	6. 最初と最後の頁 115-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 曾根正人	4. 巻 34
2. 論文標題 『成唯識論述記』訳注（二）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 就実大学史学論集	6. 最初と最後の頁 123-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 949
2. 論文標題 胎内五位図について 兎足神社蔵『胎内五位大事』との関連で	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学苑	6. 最初と最後の頁 384-390
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 脊古真哉	4. 巻 39
2. 論文標題 田遊びと修正会が出合う場(中) 天野社と高野山周辺地域の修正会と御田	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 同朋大学仏教文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 124-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤原崇人	4. 巻 全
2. 論文標題 契丹人貴族階層における追薦	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『アジアの死と鎮魂・追善』(原田正俊編、勉誠出版)	6. 最初と最後の頁 49-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 71
2. 論文標題 二十四諸天における仏道習合について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本中国学会報	6. 最初と最後の頁 135-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 全
2. 論文標題 東南アジアの関帝廟	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『狩野直禎先生追悼三国志論集』（三国志学会編、汲古書院）	6. 最初と最後の頁 339-351
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 893
2. 論文標題 奈良・平安時代前期の神仏習合	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史地理教育	6. 最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 曼陀羅寺奉賛会
2. 論文標題 アジアの中の当麻曼荼羅図の位置	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 曼陀羅寺 秘伝の曼荼羅	6. 最初と最後の頁 20-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Uejima Susumu (Trans.by Lindsey E.DeWitt)	4. 巻 Vol.42-1.2
2. 論文標題 Kami and Buddhism in the No Miwa:Rethinking the Study of the Amalgamation of Kami and Buddhas(shinbutsu shugo)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese Religions	6. 最初と最後の頁 25-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 曾根正人他(共著)	4. 巻 33
2. 論文標題 『成唯識論述記』訳注 一	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 就実大学史学論集	6. 最初と最後の頁 105-126
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 脊古真哉	4. 巻 16
2. 論文標題 高野山開創説話と丹生明神・高野明神	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本仏教総合研究	6. 最初と最後の頁 29-52
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 脊古真哉	4. 巻 38
2. 論文標題 役小角伝考 役小角/役行者伝の変遷から見えてくること	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 同朋大学仏教文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 816
2. 論文標題 中世神道・中世日本紀研究の現状	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5-18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 鳳凰出版社
2. 論文標題 『水滸全傳』與華光大帝信仰	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 道教修煉與科儀的文學體驗（陳偉強主編）	6. 最初と最後の頁 611-625
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 博揚文化公司
2. 論文標題 ナタ太子與和修吉龍王	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地方戯曲と皮影戯 - 日本學者華人戯曲曲藝論文集 - （氷上正・山下一夫編著）	6. 最初と最後の頁 265-281
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒見泰史	4. 巻 白帝社
2. 論文標題 敦煌本讚文類と唱導、變文 太子讚類から押座文、講唱體への發展中心として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 佐藤利行還曆記念論集	6. 最初と最後の頁 190-221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒見泰史、桂弘	4. 巻 13
2. 論文標題 敦煌浄土讚与変文	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 敦煌写本研究年報	6. 最初と最後の頁 133-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 荒見泰史、桂弘	4. 巻 20
2. 論文標題 指鬘と鬘、華鬘	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア社会文化研究	6. 最初と最後の頁 25-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 4
2. 論文標題 鬼を食う大蛇、神虫、天形星 木簡と絵画から見た病除けの祈願	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 古代文学と隣接領域4 『古代の文字文化』(犬飼隆編、竹林舎)	6. 最初と最後の頁 374-397
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 2
2. 論文標題 飛鳥の仏教の文化圏 道慈以前の日本の仏教	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 古代文学と隣接領域2 『古代の文化圏とネットワーク』(蔵中しのぶ編、竹林舎)	6. 最初と最後の頁 331-355
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田一彦	4. 巻 13
2. 論文標題 中国甘肅省・陝西省の石窟寺院を訪ねて 2017年度の調査から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『人間文化研究所年報』(名古屋市立大学人間文化研究所)	6. 最初と最後の頁 23-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 脊古真哉	4. 巻 37
2. 論文標題 田遊びと修正会が出合う場(上) 高野山周辺地域の修正会系行事の成立と分布についての予備的考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『同朋大学佛教文化研究所紀要』	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 816
2. 論文標題 中世神道・中世日本紀研究の現状	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5-18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 特別号2
2. 論文標題 東泉院本『太祝詞』について 影印・翻刻と解題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 六所家総合調査だより	6. 最初と最後の頁 18-28
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤聡	4. 巻 3
2. 論文標題 鎌倉時代における僧徒の参宮と仏教忌避	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本文学の展望を拓く3『宗教文芸の言説と環境』(原克昭編、笠間書院)	6. 最初と最後の頁 242-258
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 二階堂善弘	4. 巻 50
2. 論文標題 東アジアの伽藍神信仰	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 関西大学東西学術研究所紀要	6. 最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 荒見泰史	4. 巻 19
2. 論文標題 『心経』と「心」「経」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア社会文化研究	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤原崇人	4. 巻 20
2. 論文標題 捺鉢と法会 道宗朝を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 唐代史研究	6. 最初と最後の頁 87-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計44件 (うち招待講演 26件 / うち国際学会 16件)

1. 発表者名 吉田一彦
2. 発表標題 神仏の融合と分離 神宮寺の歴史と諏訪
3. 学会等名 公開シンポジウム「諏訪の神と仏教」(於諏訪文化センター ホール)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田一彦
2. 発表標題 蓬左文庫の六国史
3. 学会等名 蓬左文庫講演会（於徳川園）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田一彦
2. 発表標題 国分寺国分尼寺の造営と運営
3. 学会等名 仏教史学会例会シンポジウム「開元寺から国分寺へ」（於龍谷大学）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田一彦
2. 発表標題 親鸞門流と聖徳太子信仰
3. 学会等名 真宗教団連合 2021年度公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田一彦
2. 発表標題 聖徳太子と聖徳太子信仰 信仰の表現
3. 学会等名 同朋学会学術大会（於同朋大学）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 上島享
2. 発表標題 中世諏訪社における神事と造営 鎌倉末期を中心に
3. 学会等名 公開シンポジウム「諏訪の神と仏教」(於諏訪文化センター ホール)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤聡
2. 発表標題 中世神道・中世日本紀における諏訪明神
3. 学会等名 公開シンポジウム「諏訪の神と仏教」(於諏訪文化センター ホール)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤聡
2. 発表標題 三輪上人慶円をめぐる秘伝と密教系神道
3. 学会等名 日本学術振興会サンフランシスコ研究連絡センター&カルフォルニア大学バークレー校日本研究センター共催シンポジウム Sacred Secrets: Networks of Secret Knowledge in Japanese Religions(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伊藤聡
2. 発表標題 胎内十月図の成立と展開
3. 学会等名 EAJS(ヨーロッパ日本研究協会)第16回国際大会パネル: color:#0D0D0D">Embryos, Wombs, and Manuscripts: Religious theories of embodiment in medieval Japan (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荒見泰史
2. 発表標題 中国敦煌における地域の信仰と仏教
3. 学会等名 公開シンポジウム「諏訪の神と仏教」(於諏訪文化センター ホール)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田一彦
2. 発表標題 仏書としての『日本靈異記』
3. 学会等名 仏教文学会例会(於椙山女学園大学)(オンライン)(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤聡
2. 発表標題 祟・天譴・怪異 日本における天災と信仰
3. 学会等名 中国社会文化学会、東京大学東アジア芸文書院(EAA)共催(於東京大学)(オンライン)(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 日本仏寺中所見道教系神像
3. 学会等名 道教與物質文化 - 圖像、芸術、神話與文学論壇(於台湾政治大学文学院百年樓111會議厅)(オンライン)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒見泰史
2. 発表標題 敦煌莫高窟とその原始（基調講演）
3. 学会等名 敦煌と東アジアの信仰（於大阪大谷大学）（オンライン）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒見泰史
2. 発表標題 和泉市久保惣美術館蔵『仏説十王経』調査報告
3. 学会等名 敦煌と東アジアの信仰（於大阪大谷大学）（オンライン）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒見泰史
2. 発表標題 玄覚『証道歌』与『禅宗永嘉集』在日本的傳播
3. 学会等名 永嘉大師著作国際版本展および東亜文化交流活動（於温州市文化広伝旅游局・温州市人民政府外事弁公室）（オンライン）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒見泰史
2. 発表標題 法華信仰及其日本靈驗記
3. 学会等名 仏教文献与文学国際學術研討会（於国立政治大学）（オンライン）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Takato Fujiwara
2. 発表標題 The Culture Area of Buddhism in the Khitai Dynasty
3. 学会等名 2019 International Conference “A Look at East Asian History through Transnational Intercourse and Networks” (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 中国における道教の成立と民間信仰の日本への影響
3. 学会等名 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群特別研究事業・第2回国際検討会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 漢籍研究環境の変容と今後の課題
3. 学会等名 共同シンポジウム「情報化時代の東洋学研究 デジタルアーカイブスの現状と課題」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田一彦
2. 発表標題 天皇代理者への崇拜
3. 学会等名 International Symposium:Medieval Japanese Buddhist Practices and Their Visual Art Expressions (日本仏教の展開とその造形) (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上島享
2. 発表標題 密教修法の構成・特質と中世社会 孔雀経法を通して
3. 学会等名 International Symposium:Medieval Japanese Buddhist Practices and Their Visual Art Expressions (日本仏教の展開とその造形) (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根正人
2. 発表標題 多神教としての仏教とその東流
3. 学会等名 神仏融合研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤聡
2. 発表標題 中近世の神信仰と仏教 特に神本仏迹説をめぐって
3. 学会等名 神仏融合研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 『封神演義』の宗教文化に対する影響(特別講演)
3. 学会等名 道教友好協会2019春節特別講演会(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 日本に來ている道教・民間信仰の神々（講演）
3. 学会等名 阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット「公開講座フェスタ2018」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 関公与足利尊氏 日本最古関公神像伝説
3. 学会等名 2018関公文化国學術前沿論壇（関帝文化国際フォーラム）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 東南アジアの華人廟の祭神について
3. 学会等名 道教文化研究会・例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 シンガポール・マレーシアにおける仏教・道教の習合
3. 学会等名 神仏融合研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒見泰史
2. 発表標題 小野田亮正略伝
3. 学会等名 国際シンポジウム中国伝統教育と東アジア（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒見泰史
2. 発表標題 唐代浄土教念仏法事与変文
3. 学会等名 日中写本文献学術研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒見泰史
2. 発表標題 シルクロードの響きと躍動
3. 学会等名 東アジアの文化交流と舞楽（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 荒見泰史
2. 発表標題 シルクロードと敦煌
3. 学会等名 アートオアシスin広島（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤原崇人
2. 発表標題 金元代寺院秩序の一端 絳州白台寺「寺規」碑より
3. 学会等名 関西大学東西学術研究所 東アジア宗教儀礼班 研究例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田一彦
2. 発表標題 役優婆塞の孔雀王呪法と鬼神
3. 学会等名 日本仏教総合研究学会第1回例会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉田一彦
2. 発表標題 古代史部会コメント（日本の「仁王会」研究の論点）
3. 学会等名 大阪歴史学会2017年度大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 曾根正人
2. 発表標題 平安初期仏教界と五台山 『日本靈異記』上巻第五縁 五台山記事の背景
3. 学会等名 龍谷史学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 上島享
2. 発表標題 密教修法の歴史的変遷と孔雀經法
3. 学会等名 日本仏教綜合研究学会第1回例会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 脊古真哉
2. 発表標題 高野山開創説話と丹生明神・高野明神
3. 学会等名 日本仏教綜合研究学会第16回大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤聡
2. 発表標題 神道灌頂における宗教的心身論 父母代灌頂を中心に (Religious Conceptions of the Body-Mind Complex in Shinto Consecrations Rituals (Shintō kanjō))
3. 学会等名 Eajs2017 Conference in Lisbon (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 伊藤聡
2. 発表標題 覚城院蔵『当寺鎮守青龍権現習事』の紹介
3. 学会等名 覚城院聖教調査進捗報告会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 マレーシア・シンガポールの華人廟における特殊性 地域信仰との習合を中心に
3. 学会等名 関西大学東西学術研究所東アジア宗教儀礼研究班第25回研究例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 二階堂善弘
2. 発表標題 妙見・鎮宅霊符神と玄天上帝
3. 学会等名 皇學館大学研究開発推進センター神道研究所・公開学術シンポジウム「神道における道教受容研究の現在」(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 藤原崇人
2. 発表標題 草原の仏教王国 契丹と仏教
3. 学会等名 多摩大学インターゼミ・アジアダイナミズム班「モンゴル帝国のユーラシア興隆史」(招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計34件

1. 著者名 磯前 順一、吉村 智博、浅居 明彦、小倉 慈司、西宮 秀紀、吉田 一彦	4. 発行年 2023年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 280
3. 書名 『差別の地域史 渡辺村から見た地域と日本』(シリーズ宗教と差別2)(吉田一彦共編著)、吉田一彦担当「親鸞系諸門流と被差別民」(123-162)	

1. 著者名 磯前 順一、吉村 智博、浅居 明彦、佐々田 悠、船田 淳一、関口 寛、小田 龍哉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 290
3. 書名 『差別と宗教の日本史 「救済」の可能性を問う』（シリーズ宗教と差別3）（吉田一彦共著）、吉田一彦担当「日本の仏教と女性の 救済」（単著、195-215）「律宗と親鸞系諸門流の聖徳太子信仰」（後藤道雄と共著、216-249）	

1. 著者名 岩城卓二、上島享、河西秀哉、塩出浩之、谷川穰、告井幸男編（上島享、吉田一彦執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 388
3. 書名 『論点・日本史学』（上島享共編著）	

1. 著者名 曾根正人	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館（人物叢書）	5. 総ページ数 208
3. 書名 『道慈』（単著）	

1. 著者名 伊藤聡、斎藤英喜編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 280
3. 書名 『神道の近代』（共編著）、伊藤聡担当「[総論]「神道の中世」から「神道の近代」へ」（7-30）	

1. 著者名 伊藤聡・門屋温（監修）、新井大祐・鈴木英之・大東敬明・平沢卓也（編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 400
3. 書名 『中世神道入門』（伊藤聡監修・共著）、担当「中世神道とは」「伊勢神道」「神道灌頂」「神道書の形態」「天照大神」「春日」「清瀧権現」「童子神」「中世神話のモチーフ」「心御柱」「重源」「叡尊・覚乗」「麗気記」	

1. 著者名 伊藤聡	4. 発行年 2021年
2. 出版社 KADOKAWA	5. 総ページ数 504
3. 書名 『日本像の起源 つくられる 日本的なるもの』（単著）	

1. 著者名 伊東貴之編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 948
3. 書名 『東アジアの王権と秩序 思想・宗教・儀礼』（伊藤聡共著）、担当「三輪流神道の形成」（415-430）	

1. 著者名 中山 一麿監修、伊藤 聡編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 600
3. 書名 『神道資料の調査と研究 神道灌頂玉水流と西福寺』（寺院文献資料学の新展開 第十巻）（伊藤聡編著）、担当「総論」（5-8）、「両部神道の歴史と玉水流」（11-26）、「高幡不動金剛寺蔵『御流神道口決』解題」（521-523）、「遍照山西福寺蔵『御流神道灌頂用意』解題」（584-591）	

1. 著者名 名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センター 監修、伊藤聡編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 376
3. 書名 『真福寺善本叢刊 第三期 神道篇第3巻 御流神道』（伊藤聡編著）、担当「神祇灌頂大事 影印・翻刻」「神祇遷宮次第 大師 翻刻」「神祇秘記 翻刻」「御流神道父母代灌頂 翻刻」「御流神道灌頂内義式 翻刻」「御流神道」総説」「神祇灌頂大事 解題」「神祇遷宮次第 大師 解題」「神祇秘記 解題」「御流神道父母代灌頂 解題」「御流神道灌頂内義式 解題」	
1. 著者名 吉田 一彦、曾根 正人、荒見 泰史、高井 龍、高志 緑、水越 知、藤原 崇人、大西 和彦、松本 浩一、二階堂 善弘、高橋 早紀子、脊古 真哉、松尾 恒一、関山 麻衣子、上島 享、伊藤 聡	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 726
3. 書名 神仏融合の東アジア史（吉田一彦編著、曾根正人、荒見泰史、高井龍、高志緑、水越知、藤原崇人、大西和彦、松本浩一、二階堂善弘、高橋早紀子、脊古真哉、松尾恒一、関山麻衣子、上島享、伊藤聡共著）	
1. 著者名 吉田一彦、上島享編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 344
3. 書名 日本宗教史を問い直す（シリーズ日本宗教史1）（吉田一彦、上島享共編著）	
1. 著者名 上島享、吉田一彦編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 358
3. 書名 世界のなかの日本宗教（シリーズ日本宗教史2）（上島享共編著、荒見泰史、二階堂善弘共著）	

1. 著者名 伊藤聡、吉田一彦編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 308
3. 書名 宗教の融合と分離・衝突（シリーズ日本宗教史3）（伊藤聡・吉田一彦共編著、曾根正人共著）	

1. 著者名 佐藤文子、上島享編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 338
3. 書名 宗教の受容と交流（シリーズ日本宗教史4）（上島享共編著）	

1. 著者名 伊藤聡、佐藤文子編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 272
3. 書名 日本宗教の信仰世界（シリーズ日本宗教史5）（伊藤聡共編著）	

1. 著者名 佐藤文子、吉田一彦編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 294
3. 書名 日本宗教史研究の軌跡（シリーズ日本宗教史6）（吉田一彦共編著）	

1. 著者名 佐藤弘夫、平山洋編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 概説 日本思想史 [増補版] (曾根正人、吉田一彦共著)、曾根担当は「「日本」の誕生」「聖徳太子」(11-18)、吉田担当は「奈良時代の思想と宗教」「神仏習合外来説」(19-32)	

1. 著者名 日本思想史事典編集委員会、日本思想史学会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 744
3. 書名 日本思想史事典 (伊藤聡共編著、吉田一彦共著)	

1. 著者名 荒見泰史編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 仏教の東漸と西漸 (編著)	

1. 著者名 鳥根県古代文化センター編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ハーベスト出版	5. 総ページ数 249
3. 書名 古代出雲ゼミナール (共著)	

1. 著者名 伊藤聡	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 285
3. 書名 神道の中世 伊勢神宮・吉田神道・中世日本紀	

1. 著者名 中山一麿・伊藤聡ほか編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 448
3. 書名 『寺院文献資料学の新展開』第1巻（共編著）	

1. 著者名 岡田荘司・大東敬明・伊藤聡編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 424
3. 書名 『真福寺善本叢刊・神道篇1 神道古典』（共編著）	

1. 著者名 古松崇志・臼杵勲・藤原崇人・武田和哉（共編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 336
3. 書名 金・女真の歴史とユーラシア東方	

1. 著者名 二階堂善弘	4. 発行年 2020年
2. 出版社 関西大学出版部	5. 総ページ数 146
3. 書名 東南アジアの華人廟と文化交渉	

1. 著者名 大隅和雄、大山誠一、長谷川宏、増尾伸一郎、吉田一彦	4. 発行年 2019年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 512
3. 書名 日本思想史の可能性	

1. 著者名 古松崇志・白杵勲・藤原崇人・武田和哉編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 336
3. 書名 金・女真の歴史とユーラシア東方	

1. 著者名 大久保 良峻、吉田 一彦、上島 享、蓑輪 顕量、菊地 大樹、原田 正俊、曾根原 理、林 淳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 384
3. 書名 日本仏教の展開（吉田一彦共著）	

1. 著者名 中世禅籍叢刊編集委員会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 792
3. 書名 中世禅籍叢刊 第12巻 稀覯禅籍集 続 (伊藤聡共著)	

1. 著者名 二階堂善弘、山下一夫、中塚亮、二ノ宮聡 訳	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 552
3. 書名 全訳 封神演義 1	

1. 著者名 二階堂善弘、山下一夫、中塚亮、二ノ宮聡 訳	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 520
3. 書名 全訳 封神演義 2	

1. 著者名 二階堂善弘、山下一夫、中塚亮、二ノ宮聡 訳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 480
3. 書名 全訳 封神演義 3	

1. 著者名 二階堂善弘、山下一夫、中塚亮、二ノ宮聡 訳	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 500
3. 書名 全訳 封神演義 4	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	曾根 正人 (SONE Masato) (70368695)	就実大学・人文科学部・教授 (35307)	
研究分担者	脊古 真哉 (SEKO Shinya) (20448707)	同朋大学・仏教文化研究所・客員所員 (33911)	
研究分担者	上島 享 (UEJIMA Susumu) (60285244)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
研究分担者	伊藤 聡 (Ito Satoshi) (90344829)	茨城大学・人文社会科学部・教授 (12101)	
研究分担者	二階堂 善弘 (NIKAIIDO Yoshihiro) (70292258)	関西大学・文学部・教授 (34416)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	荒見 泰史 (ARAMI Hiroshi) (30383186)	広島大学・人間社会科学研究科（総）・教授 (15401)	
研究分担者	藤原 崇人 (FUJIWARA Takato) (50351250)	龍谷大学・文学部・准教授 (34316)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	関山 麻衣子 (SEKIYAMA Maiko)		
研究協力者	高井 龍 (TAKAI Ryuu)		
研究協力者	高橋 早紀子 (TAKAHASHI Sakiiko)		
研究協力者	高志 緑 (TAKASHI Midori)		
研究協力者	大西 和彦 (OUNISHI Kazuhiko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------